



株式会社クラレ

2024 年度第 2 四半期決算説明会

説明者

代表取締役社長 川原 仁

代表取締役 専務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治

2024 年 8 月 9 日

- 多くの事業において販売数量が伸長
円安効果もあり、中間期として売上高、各利益いずれも過去最高を更新

[億円]

	2024年度上期	2023年度上期	増減
売上高	4,112	3,810	302
営業利益	455	410	45
経常利益	440	385	55
親会社株主に帰属する 中間純利益	304	218	86
	参考		
円／ドル（平均）	152	135	
円／ユーロ（平均）	165	146	
国産ナフサ 千円／kl	75	68	

川原：本日は大変ご多忙のところ、また暑い中、クラレグループの決算説明会にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。2024 年度第 2 四半期の決算説明を始めさせていただきます。

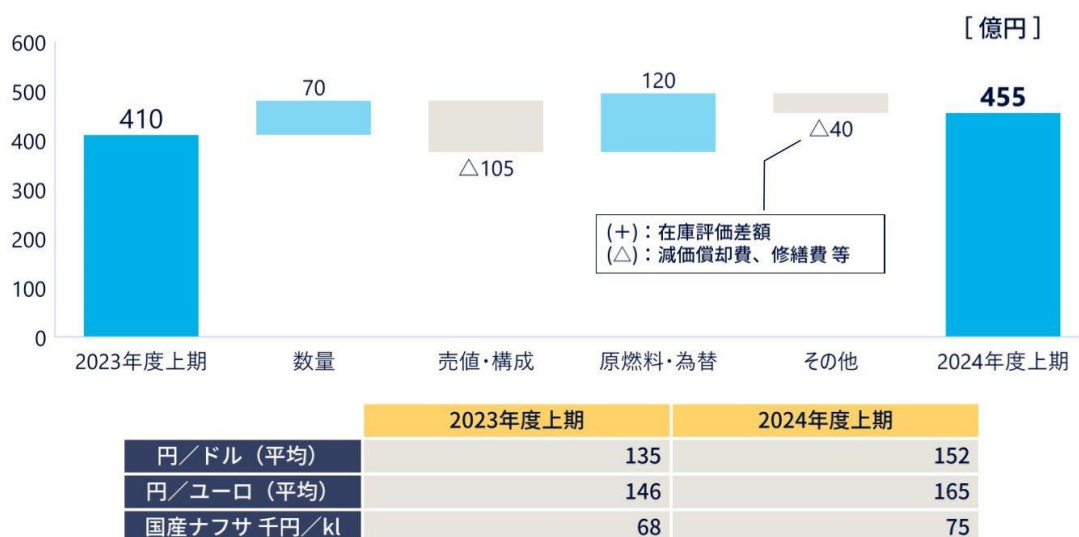
24 年度上期の世界経済につきましては、ヨーロッパと中国の景気低迷が継続しました。米国は堅調に推移しましたが、全体としては緩やかな成長となりました。一方で、ロシア、ウクライナ、あるいは中東情勢など地政学的な緊張がグローバルな経済活動のリスク要因となるなど、先行きは相変わらず不透明な状況が続いています。

かかる環境下、私どもの多くの事業について販売数量が伸長したこと、また円安によるプラス影響もあり、当社グループの業績は、売上高は前年同期比 302 億円増の 4,112 億円、営業利益は 45 億円増の 455 億円、親会社株主に帰属する中間純利益は 86 億円増の 304 億円となり、中間期として、売上高、各利益、いずれも過去最高となっています。

なお、為替および原燃料の実績につきましては、資料にお示ししてある通りです。

2024年度 上期営業利益増減分析

kuraray



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

3

このスライドでは、前年同期比での営業利益の増減要因を全社のまとめとして示しています。

左から、「数量」については景気が緩やかに成長したこと、需要の回復に伴い、70 億円の増益要因となっています。その次、「売値・構成」ですが、こちらは原料価格の推移に合わせて価格調整をした影響もございまして、105 億円の減益要因となりました。

一方で、「原燃料・為替」につきましては、原燃料価格の下落と為替が円安に振れた影響で、120 億円の増益要因となりました。

最後に一番右の「その他」ですが、昨年にあった在庫評価差額による利益の引き下げが今年度はなくなった一方で、新たに減価償却費や修繕費などの経費が増加したことにより、合計としては 40 億円の減益要因となっています。

■ 利益の拡大に伴い、財務KPIはいずれも向上

		2023年度	2024年度上期	2026年度 目標
財務 KPI 	ROIC	6.2%	7.5%	8%
	EBITDA※	1,526億円	873億円	1,700億円
	ROE	6.2%	8.0%	10%
	EBITDAマージン (参考)	19.5%	21.2%	23%

※営業利益+減価償却費

このスライドでは中期経営計画「PASSION 2026」で掲げた財務 KPI の 24 年度上期時点での実績を示しております。利益の拡大に伴って、各 KPI はいずれも向上の傾向を示しておりまして、ROIC は 7.5%、EBITDA は 873 億円、ROE は 8.0%という結果となりました。

中期経営計画の最終年度の目標に向けて、引き続き資本効率とキャッシュ創出力の向上に努めてまいります。

2024年度 通期業績予想（前年実績および前回予想との比較）

kuraray

■ 上期業績を受け、売上高、各利益いずれも上方修正

[億円]

	2024年度予想 (2024年8月9日)	2023年度実績	増減	前回予想 (2024年5月14日)	増減
売上高	8,500	7,809	691	8,400	100
営業利益	890	755	135	850	40
経常利益	840	690	150	790	50
親会社株主に 帰属する当期純利益	550	424	126	490	60
<参考>					
円／ドル（平均）	149	141			
円／ユーロ（平均）	160	152			
国産ナフサ 千円／kl	77	68			

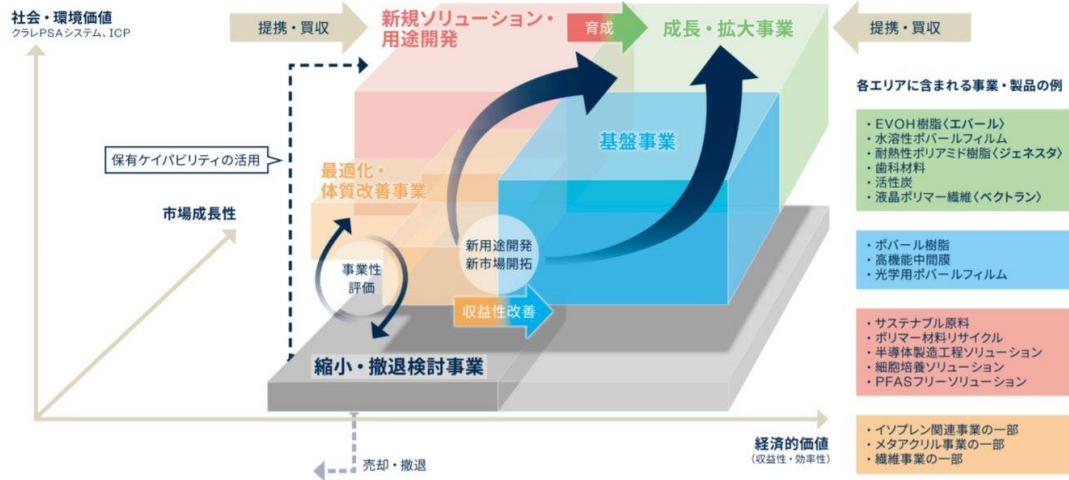
© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

5

上期実績が当初の想定を上回る結果となったことを踏まえ、通期業績予想を前回 5 月 14 日に公表した金額から増額しています。

新たな予想としまして、通年で売上高は 8,500 億円、営業利益は 890 億円、当期利益は 550 億円といたします。

- 「社会・環境価値」「経済的価値」の2軸で事業評価を行う
その高度化にあたっては「市場成長性」も考慮する



※PSA：ポートフォリオ・サステナビリティ・アセスメント、ICP：インターナル・カーボン・プライシング

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

6

クラレグループが今中期経営計画「PASSION 2026」において取り組んでいる事業ポートフォリオの高度化について説明します。

イラストに示しています通り、事業ポートフォリオの評価につきましては、このグラフでいう横軸の「経済的価値」、縦軸の「社会・環境価値」、この2軸を基本としますが、その高度化に当たりましては、奥行き3軸目、「市場成長性」も考慮します。

この3軸の評価の中で縦軸の「社会・環境価値」につきましては、本日詳細な説明は省きますが、WBCSD、日本語で言いますと「持続可能な開発のための世界経済人会議」が定めた、客観性あるいは透明性が高い製品ポートフォリオ評価手法である PSA、ポートフォリオ・サステナビリティ・アセスメントに準拠したクラレ版の PSA システムと、インターナル・カーボン・プライシングの2つの指標を用いて実施しています。

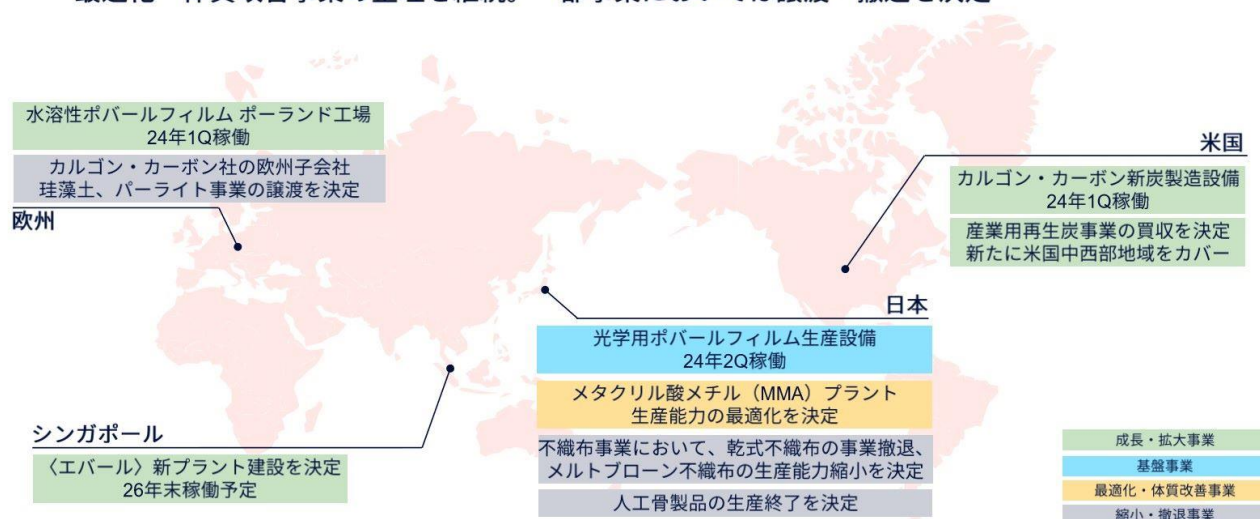
また、横軸の「経済的価値」につきましては、稼ぐ力としての営業キャッシュフロー、そして効率性としての ROIC、この2つの指標を用いて評価します。

5ヶ年の中期経営計画「PASSION 2026」の前半の2年間でこれらを運用して、成長性、競争力の高い事業、製品の見極めを進めてまいりました。特に、コロナ禍から経済が正常化する中で、自助努力で吸収できるレベルを超える原燃料価格の高騰が発生し、当社もやむなくお客様に価格改定を通じて相応のご負担をいただくことになりました。その過程において、私どもクラレグループの製品の中で、お客様に価格改定を受け入れていただける競争力のある製品、そして残念ながらそうではない製品がこれまで以上に明確になってまいりました。

このような状況も踏まえて、このイラストでお示した4色のエリア、緑色が「成長・拡大事業」、そして水色が「基盤事業」、赤色が「新規ソリューション・用途開発」、そして左側のオレンジ色が「最適化・体質改善事業」を示していますが、各事業・製品をこれらいずれかのエリアに位置付けることにしています。さらに、オレンジ色の「最適化・体質改善事業」につきましては、事業性評価を実施いたしまして事業によっては、左下のグレーゾーンの「縮小・撤退」の判断をいたします。

事業評価を行い、収益基盤強化を推進／一部事業の譲渡・撤退を決定 kuraray

- 収益基盤となる事業の新設備を着実に立ち上げ。さらなる能力増強を決定
最適化・体質改善事業の整理を継続。一部事業においては譲渡・撤退を決定



© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

7

前ページと関連しまして、このスライドでは、事業ポートフォリオの高度化に関する、この2024年度上期の取り組みについて、その大きなものの進捗について示しています。

前のページのスライドで、「成長・拡大事業」あるいは「基盤事業」と位置づけた事業・製品については、米国の活性炭の新炭製造設備、日本・倉敷での光学用ポパールフィルム生産設備などの新設備を着実に立ち上げています。

また、サーキュラーエコノミーにより、今後ますます拡大が期待されるビニルアセテートセグメントの〈エバール〉のシンガポールでの新プラントの建設や、先日公表していますが、米国での活性炭の産業用再生炭事業の買収など、将来の成長に向けた意思決定を行いました。

一方で、市場環境や事業のライフサイクルを踏まえて、残念ながら将来に向けて「社会・環境価値」あるいは「経済的価値」の改善が見られないであろう事業・製品については、客観的に厳しい判断を進めています。

オレンジ色の「最適化・体質改善事業」ですが、既に公表しました MMA プラントの生産能力の最適化により収益改善を目指す決定を行いました。また一部事業については、「最適化・体質改善事業」からグレーの色を示している「縮小・撤退事業」への移行、事業譲渡あるいは縮小・撤退することを決定しました。カルゴン・カーボン社の欧州子会社が手がける珪藻土、パーライト事業、あるいは繊維セグメントの中の乾式不織布事業などがこれに当たります。

前ページのスライドで、赤い色で示した「新規ソリューション・用途開発」につきましては、イノベーションネットワークセンター、略して INC と呼称していますが、INC を中心に着々と開発を進めています。こちらにつきましては、また改めて近い将来お話ができるかと考えています。

このような事業評価をもとに、メリハリを効かせた経営資源の投入を行うことで、当社としましては、よりサステナブルな事業構造への転換と持続的な成長の実現を目指してまいります。

2024年度 株主還元（増配）

kuraray

■ 上期の最高益更新、及び通期業績予想を踏まえ、年間で4円の増配予想に変更

	配当金 1株当たり40円以上／年		自己株式の取得 弾力的に実施	総還元性向 35%以上
23年実績	中間 期末 年間	25円 25円 50円	—	39.4%
24年予定 (変更後)	中間 期末 年間	27円 (+2円) 27円 (+2円) 54円 (+4円)	200億円※	約68%

※ 取得し得る株式の総数：1,500万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.48%)
株式取得価額の総額：200億円(上限)
株式の取得期間：2024年5月15日～2024年10月31日まで実施

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

8

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題の一つとして位置づけており、中期経営計画「PASSION 2026」では、総還元性向を 35%以上、かつ 1 株につき年間配当金は 40 円以上ということを基本方針としています。

そして、収益の拡大を通じた株主還元の充実を図ることとしていますが、本日公表しました通り、先に述べた株主還元方針と足元の業績動向を踏まえて、今回の中間配当につきましては 2 円増額といたします。また、期末の配当予想につきましても、1 株当たり 2 円を増額することにしまして、27 円の予想となります。これによって年間の 1 株当たり配当金予想は 54 円ということになります。こちらについては、前回予想および前期実績からいずれも 4 円の増配になると見込んでおります。

この配当金 54 円に、本年 5 月に決定し、現在実行中の自己株式の取得を加えますと、今の利益予想からすると、計算では総還元性向は約 68%になります。今後も引き続き株主還元の充実を図ってまいります。

私からのご説明は以上になります。ありがとうございました。

セグメント別 売上高・営業利益

kuraray

[億円]

	2024年度上期		2023年度上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	2,088	439	1,989	402	99	37
イソプレン	375	△40	318	△27	57	△13
機能材料	1,028	65	934	57	94	7
繊維	312	7	302	7	11	1
トレーディング	322	27	290	23	33	4
その他	250	9	229	6	21	3
調整額	△264	△52	△251	△59	△13	6
合計	4,112	455	3,810	410	302	45

多賀：続きまして、決算内容の詳細につきまして、私、多賀よりご説明を申し上げます。

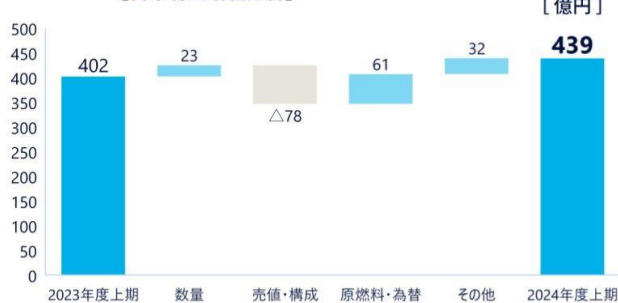
このスライドでは、各セグメントの売上高および営業利益の実績を前年同期との比較でお示ししております。ご覧いただいた通り、全てのセグメントにおきまして増収となりました。

営業利益につきましては、イソプレンが減益となりましたが、それ以外のセグメントはビニルアセテートを中心に増益となりました。

[億円]

	2023年度上期	2024年度上期	増減
売上高	1,989	2,088	99
営業利益	402	439	37

【営業利益増減分析】



ポバール樹脂	欧州向け物流が混乱する中、グローバルな安定供給体制を背景に販売数量が増加。
光学用ポバールフィルム	流通在庫調整の影響が解消し、販売数量が増加。テレビ用パネル大型化の需要に応えるため、2Qに新設備の稼働を開始。
高機能中間膜	欧州の建築用途で景気低迷の影響が継続し、販売数量が減少。
水溶性ポバールフィルム	欧州で長引く景気低迷の影響を受けているものの、流通在庫の調整が進み、販売数量は増加。
〈エパール〉	自動車用途は堅調に推移。食品包装用途は昨年後半から続く需要の落ち込みの影響を受け、販売数量は減少したものの、2Qに入り各地域で回復基調に。シンガポールでの新プラントの建設（2026年末稼働予定）を決定。
主な増減要因	原燃料価格の変動に合わせ販売価格を調整。 昨年大きな減益要因であった在庫評価差額の影響が無くなり、セグメント全体で大幅な増益。

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

11

ここからは、セグメント別に事業の状況を説明してまいります。

最初はビニルアセテートセグメントです。当セグメントは前年対比で増収増益となりました。各事業の販売の状況は右上に記載のコメントをご覧ください。

営業利益は前年同期比で 37 億円増加いたしました。「数量」はポバール樹脂、光学用ポバールフィルム、水溶性ポバールフィルムの販売数量が増加し、23 億円の増益要因となりました。

また、原燃料価格の推移に合わせた価格の調整や販売構成などで、「売値・構成」は 78 億円の減益要因となりました。

「原燃料・為替」は 61 億円の増益要因となりました。また、昨年ありました、在庫評価差額による利益の押し下げ、これが今年はなくなりましたので、「その他」は 32 億円の増益要因となりました。

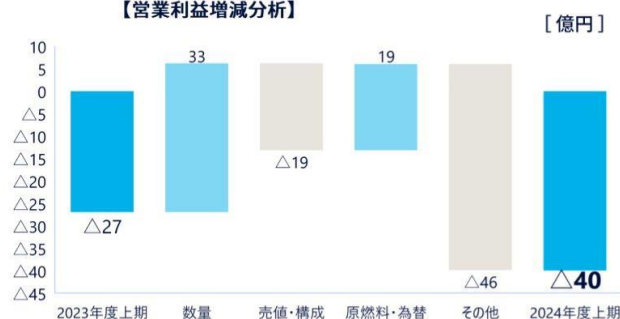
以上のことから、セグメント全体では増益ということになります。

〔億円〕

	2023年度上期	2024年度上期	増減
売上高	318	375	57
営業利益	△27	△40	△13

イソプレンケミカル、エラストマー	自動車用途などを中心に需要が回復し、販売数量が増加。
〈ジェネスタ〉	堅調な自動車用途に加え、電気・電子用途でも需要が回復し、販売数量が増加。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	タイ拠点稼働に伴う拡販により販売数量は増加。 原燃料価格の変動に合わせ販売価格を調整。 減価償却費負担や在庫評価差額の影響もあり、セグメント全体では減益。
--------	---

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

12

イソプレンセグメントです。当セグメントは前年対比で増収減益となりました。各事業の状況は記載のコメントをご覧ください。

「数量」につきましては、タイ拠点稼働に伴う拡販などによって販売数量が増え、33 億円の増益要因となりました。

一方、原燃料価格の推移に合わせた価格の改定、販売・構成の変化によって、「売値・構成」が 19 億円の減益要因となりました。「原燃料・為替」は、原燃料価格の下落と円安によって 19 億円の増益要因となりました。

一方、タイ拠点の減価償却費負担の増や、在庫評価差額の影響などによって、「その他」は 46 億円の減益要因となりました。

イソプレンケミカル、エラストマーでは販売数量が増え、〈ジェネスタ〉も主用途である電気・電子用途で需要が回復基調となっております。第 3 四半期以降も一層の販売拡大を図ってまいります。

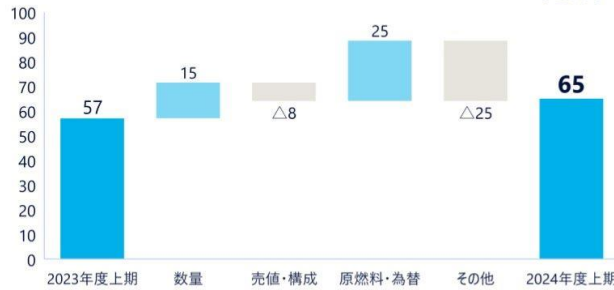
〔億円〕

	2023年度上期	2024年度上期	増減
売上高	934	1,028	94
営業利益	57	65	7

メタアクリル	電気・電子用途を中心に需要の回復が見られ、販売数量が増加。
メディカル	審美治療用歯科材料の販売が欧米を中心に引き続き好調に推移。
環境ソリューション	欧州の産業用途では景気低迷による影響が見られたものの、北米の飲料水用途を中心に、活性炭の販売が堅調に推移。米国の活性炭新設備は1Qに稼働を開始。

【営業利益増減分析】

〔億円〕



主な増減要因	メディカルでは販売数量が増加。活性炭の減価償却費やメディカルの販売費など経費が増加するも、原燃料価格の落ち着き、円安による増益でカバー。
--------	--

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

13

機能材料セグメントは前年同期比で増収増益となりました。各事業の状況は記載の通りです。

「数量」は、いずれの事業も販売数量が増え、増益要因となりました。中でもメディカルが好調に推移しました。「原燃料・為替」は25億円の増益要因となりました。

「その他」は、環境ソリューションの米国活性炭新設備稼働に伴う減価償却費の増加、およびメディカルで拡販のための経費の増加がありまして、25億円の減益要因となりました。

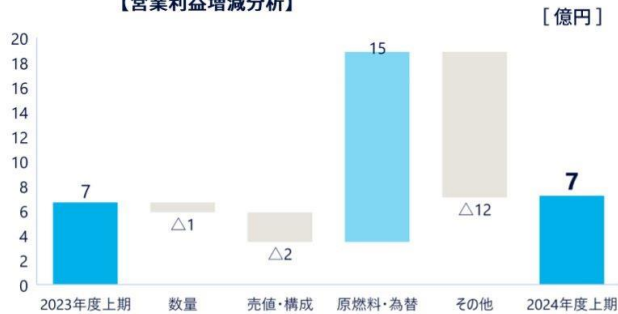
セグメント全体では増益を確保いたしました。

[億円]

	2023年度上期	2024年度上期	増減
売上高	302	312	11
営業利益	7	7	1

〈クラリーノ〉	自動車用途やスポーツ用途で需要の回復が進み、販売数量が増加。
繊維資材	自動車用途などで需要の回復が見られたものの、欧州の建材用途などが低調。
生活資材	〈クラフレックス〉〈マジックテープ〉ともに需要が低調。不織布事業において、乾式不織布の事業撤退、及びメルトブローン不織布の生産能力縮小を決定。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	自動車用途では回復が見られたものの、欧州等で販売が低調。原燃料価格の落ち着き、円安による増益でカバー。
--------	---

繊維セグメントは前年同期比で増収微増益となりました。各事業の販売の状況はコメントの通りです。

「原燃料・為替」は原燃料価格が落ち着いたこと、および、為替が円安に進んだことにより、15億円の増益要因となりました。一方で、販管費の増加や在庫評価差額の影響などにより、「その他」は12億円の減益要因となりました。

[億円]

	2024年度上期	2023年度上期	増減
営業CF	637	576	61
投資CF*	△358	△302	△57
フリーCF*	279	274	4
設備投資 (受入ベース)	349	325	24
減価償却費 (のれん償却費込み)	418	367	51
研究開発費	123	119	4

*投資CF、フリーCF：運用資金、M&A関連を除く

このスライドでは、24 年度上期のキャッシュフローおよび主要な指標についてご説明申し上げます。

営業キャッシュフローは 637 億円、投資キャッシュフローはマイナスの 358 億円、その結果、フリーキャッシュフローは 279 億円となりました。

設備投資の受入ベースは前年同期比 24 億円増の 349 億円となりました。

減価償却費は 51 億円増の 418 億円。

研究開発費は 4 億円増の 123 億円となりました。

[億円]

	2024年6月末	2023年12月末	増減
流動資産	5,865	5,517	348
固定資産	7,407	7,028	379
資産合計	13,272	12,545	727

	2024年6月末	2023年12月末
円／ドル（期末）	161	142
円／ユーロ（期末）	172	157

このスライドでは、貸借対照表の資産の部を昨年末と比較しております。

流動資産は 348 億円の増加となりました。これは主に為替や定期修理に備えた在庫積み増しの影響で棚卸資産が 275 億円増加したことによるものです。

固定資産は、設備投資による増加に加え、円安で海外子会社の固定資産の評価額が上がったことにより、379 億円の増加となりました。

貸借対照表②(負債と純資産の部)

kuraray

[億円]

	2024年6月末	2023年12月末	増減
流動負債	2,066	2,006	61
固定負債	3,011	3,178	△166
負債合計	5,078	5,183	△105
純資産合計	8,194	7,362	833
負債・純資産合計	13,272	12,545	727
自己資本比率	60.4%	56.9%	3.5%

	2024年6月末	2023年12月末
円／ドル（期末）	161	142
円／ユーロ（期末）	172	157

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

17

このスライドでは、貸借対照表の負債・純資産の部を示しております。

負債は、借入金の返済などによって 105 億円の減少となりました。純資産は為替換算調整勘定が 717 億円増えた影響などにより、833 億円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は 3.5%上昇し、60.4%となりました。

2024年度 業績予想及び主要指標

kuraray

[億円]

	2024年度予想 (2024年8月9日)	2023年度	増減
売上高	8,500	7,809	691
営業利益	890	755	135
経常利益	840	690	150
親会社株主に 帰属する当期純利益	550	424	126
1株当たり当期純利益	166円42銭	126円80銭	39円62銭
1株当たり配当	54円	50円	4円
設備投資(決定ベース)	1,300	599	701
設備投資(受入ベース)	810	673	137
減価償却費(のれん償却費込)	870	772	98
研究開発費	270	244	26

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

18

このスライドでは、24 年度通期の業績予想についてご説明します。

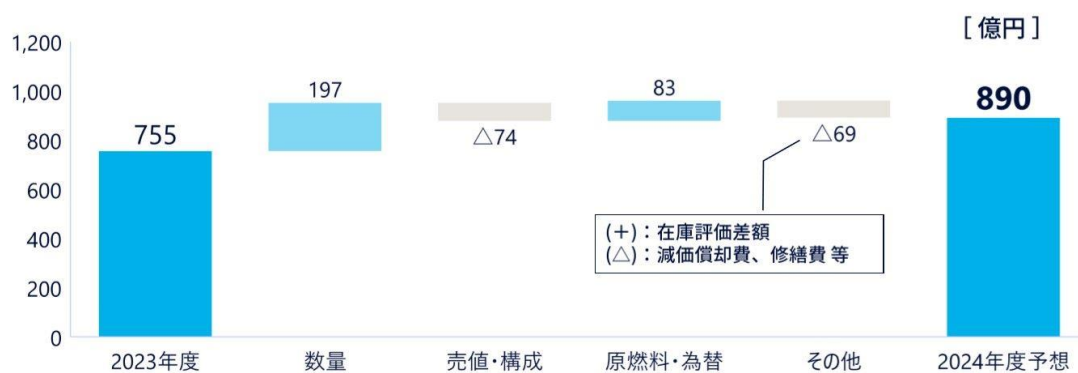
売上高および各利益につきましては、先ほど川原が申し上げた通りです。1 株当たりの当期純利益は 550 億円をベースに 166 円 42 銭となります。配当は年間 54 円を予定しております。

決定ベースでの設備投資は、本年 3 月に建設を決定しましたシンガポールの〈エバール〉新プラントを含めまして、1,300 億円を見込んでおります。受入ベースでは、光学用ポバールフィルムの建設、先に述べました〈エバール〉の新プラント建設、また昨年に投資を決定しました高強力繊維〈ベクトラン〉の能力増強工事などによって 810 億円を見込んでおります。

減価償却費は、米国での活性炭製造設備の稼働などによって、98 億円増の 870 億円。研究開発費は 26 億円増の 270 億円となる見込みです。

2024年度 通期営業利益増減分析

kuraray



	2023年度	2024年度前提
円／ドル (平均)	141	149
円／ユーロ (平均)	152	160
国産ナフサ 千円／kl	68	77

© Copyright 2024 KURARAY CO., LTD.

19

このスライドでは、23年度対比の営業利益予想の増減要因をお示しております。

24年度は、多くの事業で販売量が増加し、これに伴う生産数量増加によって、「数量」が197億円の増益要因となる見込みです。

また、価格調整の影響などで、「売値・構成」は74億円の減益要因となる一方、「原燃料・為替」につきましては、原料価格は上昇しているものの、燃料価格は落ち着いていまして、また円安効果もあり、トータルで83億円の増益要因となる見込みです。

「その他」は、在庫評価差額が増益要因となるものの、減価償却費、経費などの増加によって69億円の減益要因となる見込みです。

これらを合計しまして、全体では135億円の増益を見込んでおります。

セグメント別 売上高・営業利益比較

kuraray

[億円]

	2024年度予想 (2024年8月9日)		2023年度 実績		増減		2024年度予想 (2024年5月14日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,230	850	4,068	863	162	△13	4,220	850	10	0
イソプレ	775	△70	657	△109	118	39	760	△85	15	15
機能材料	2,150	150	1,898	103	252	47	2,150	140	0	10
繊維	690	35	619	18	71	17	710	40	△20	△5
トレーディング	670	57	616	52	54	5	660	55	10	2
その他	465	25	457	5	8	20	430	20	35	5
調整額	△480	△157	△504	△178	24	21	△530	△170	50	13
合計	8,500	890	7,809	755	691	135	8,400	850	100	40

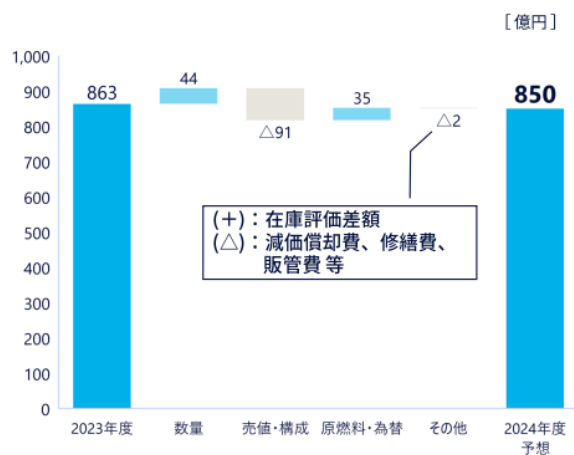
このスライドでは、今回の修正予想を前年度実績および5月の前回予想と比較してお示ししています。

繊維は厳しい事業環境を踏まえて、前回予想から減益の予想としましたが、機能材料は各製品の販売が伸長することで増益を見込んでいまして、イソプレンにつきましては赤字幅の縮小を見込んでいます。ビニルアセテートにつきましては引き続き安定的に利益を確保いたします。

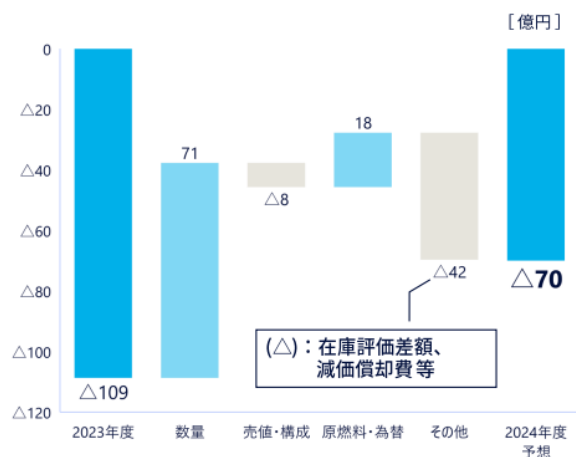
【参考】セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

ビニルアセテートセグメント



イソプレンセグメント



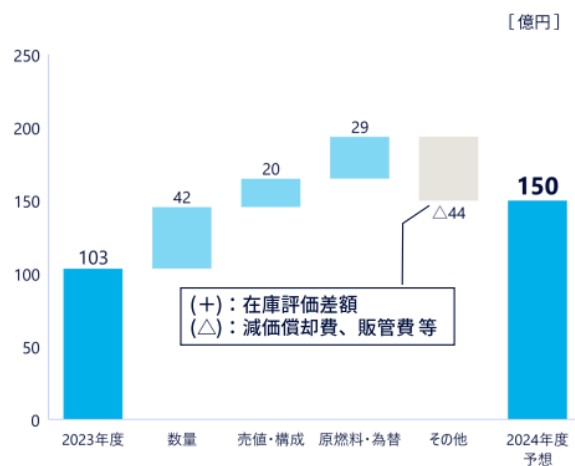
21 ページ以降は修正した業績予想のセグメント別の利益増減分析および詳細な計数情報となりますので、参考までにご覧いただければと思います。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

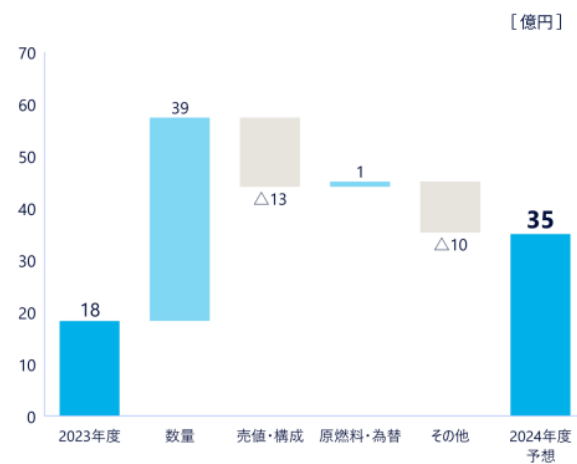
【参考】セグメント別 営業利益増減分析

kuraray

機能材料セグメント



繊維セグメント



[億円]

	2024年度予想 (2024年8月9日)			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	4,112	4,388	8,500	3,810	3,999	7,809	302	389	691
営業利益	455	435	890	410	345	755	45	90	135
経常利益	440	400	840	385	305	690	55	95	150
親会社株主に 帰属する当期純利益	304	246	550	218	206	424	86	40	126

【参考】セグメント別売上高予想（前年実績との比較、半期）

kuraray

〔億円〕

	2024年度予想 (2024年8月9日)			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	2,088	2,142	4,230	1,989	2,079	4,068	99	63	162
イソプレン	375	400	775	318	339	657	57	61	118
機能材料	1,028	1,122	2,150	934	964	1,898	94	158	252
繊維	312	378	690	302	317	619	11	61	71
トレーディング	322	348	670	290	326	616	33	21	54
その他	250	215	465	229	228	457	21	△13	8
調整額	△264	△216	△480	△251	△253	△504	△13	37	24
合計	4,112	4,388	8,500	3,810	3,999	7,809	302	388	691

【参考】セグメント別 営業利益予想（前年実績との比較、半期）

kuraray

[億円]

	2024年度予想 (2024年8月9日)			2023年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	439	411	850	402	461	863	37	△50	△13
イソプレソ	△40	△30	△70	△27	△82	△109	△13	52	39
機能材料	65	85	150	57	46	103	7	40	47
繊維	7	28	35	7	12	18	1	16	17
トレーディング	27	30	57	23	29	52	4	1	5
その他	9	16	25	6	△1	5	3	17	20
調整額	△52	△105	△157	△59	△120	△178	6	15	21
合計	455	435	890	410	345	755	45	90	135

【参考】セグメント別 四半期売上高推移

kuraray

[億円]

	2023年度					2024年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期
ビニルアセテート	978	1,011	1,039	1,040	4,068	990	1,098	2,088
イソプレン	158	160	150	188	657	172	204	375
機能材料	454	480	463	501	1,898	487	540	1,028
繊維	135	166	148	169	619	138	174	312
トレーディング*	138	152	158	168	616	153	169	322
その他	113	115	111	117	457	117	133	250
調整額	△127	△124	△135	△118	△504	△136	△128	△264
合計	1,850	1,960	1,934	2,066	7,809	1,922	2,190	4,112

【参考】セグメント別 四半期営業利益推移

kuraray

[億円]

	2023年度					2024年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期
ビニルアセテート	178	224	235	226	863	248	191	439
イソプレン	2	△29	△14	△68	△109	0	△40	△40
機能材料	35	23	24	22	103	32	32	65
繊維	2	4	11	1	18	△2	10	7
トレーディング	11	12	14	14	52	13	14	27
その他	1	5	0	△1	5	4	5	9
調整額	△16	△42	△63	△56	△178	△8	△45	△52
合計	213	196	207	138	755	288	167	455